

2026 SUPER GT Rond 4, FUJI GT 300km RACE

「波乱の幕開け、赤旗中断。期待とは裏腹のレース展開となり悔しい 9 位、それでも貴重な 7 ポイントをゲット！」



●8 月 2 日(決勝)

スーパーGT 第 4 戦『FUJI GT 300 KM RACE』は、誰もが予期せぬ波乱の幕開けとなりました。事前の天気予報は、スタート時刻あたりと午後 6 時くらいに雨が降るとのことでしたが、実際には正午から予定されていた 20 分間のウォームアップラン直前に大きな雨粒がサーキットを濡らしました。VELOREX の 6 号車はウェットタイヤを装着してコースインしたのですが、雨はすぐにやみ、強い日差しが照り付け、路面は急速に乾き始めました。それでも 1 周目にピットに戻ってもう 1 セットのウェットタイヤをスクラブし、さらにドライ用タイヤに履き替え、バランスチェックをしました。20 分という限られた時間の中でドライバー交代をしながら





ら必要な作業を着実にこなし、さらに 8 周目に 1 分 39 秒 141 で 8 番手タイムをマークしました。ふたりのドライバーは決勝用のセットアップにも満足気で、チームは勝利に向けてやる気にあふれた雰囲気です。

午後 1 時 30 分の決勝スタートに向けてマシンをグリッドに並べ、多くのファンで賑わうグリッドウォークの最中に再び雨が降り出しました。かなり激しい雨でしたが、コース全域を濡らしたあたりで雨はあがり、またしても強い日差しが照り付けてきました。

決勝スタートまでにはまだ時間があります。レインタイヤに交換し、再びドライ用タイヤに戻すチームが多く、2 台のマシンを除いて多くのチームが最終的にドライ用タイヤをチョイスしました。スターティングドライバーの片山義章選手は一旦レインタイヤに交換したものの、最終的にドライ用タイヤを選び、メカニックたちは制限時間内にタイヤ交換を終えてスタートを待ちました。

GT500 クラスは全車ドライ用タイヤ、GT300 クラスは 2 台を除いてドライ用タイヤという状況の中、レースはセーフティカースタートと発表され、予定どおり午後 1 時 30 分にスタートが切られました。

セーフティカーランの間に 3 番手につける片山義章選手は、タイヤを温めようとクイックにステアリングを切り、まだ乾かぬ路面に足をすくわれ 100R でハーフスピンを喫してチームスタッフを驚かしましたが、本人は落ち着いた状況で巧みにマシンをコントロールし、何事もなかったかのようにレースに戻りました。

そして 3 周終了 4 周目にセーフティカーが排除され、レースが再開した直後、GT500 クラスのマシンの中団で接触が起こり、1 台のマシンがメインストレートで宙に舞う大クラッシュが発生。レースは即座に赤旗中断となり、全車はコース上に停止しました。幸いドライバーに大きな怪我は無く、レースは車両の撤収とコースの清掃後、午後 2 時 15 分再開と発表されました。

午後 2 時 15 分、セーフティカー先導のもと、5 周目からレースが再開されました。3 番手で周回を重ねる片山義章選手はタイヤを温めながらレースを進めますが、13 周目を過ぎたあたりでまたしても雨が降り出しました。レースの 3 分の 2 以上をひとりのドライバーで走るとは許されていないため、22 周を過ぎるあたりまでドライバー交代はできません。後方からは滑りやすい路面で電子デバイスに優れるメルセデスが追い上げてきます。逆に 6 号車はハードめのタイヤを履いているため、厳しい戦いを強いられます。16 周目に 4 番手にドロップした片山義章選手は、17 周目にさらに 1 台にパスされますが、そのマシンを第 1 コーナーで再びパス。激しい攻防を見せながら、周回を重ねる 6 号車でしたが、ウェット路面でのペース







りで、自分たちのタイヤとコンディションが全くあっておらず、厳しい戦いになってしまいました。これほど路面温度が下がるとは思っていませんでしたし、タイヤの内圧も下げていたので雨が降ってきたときは悔しさがこみあげてきました。ニクラス選手に交代しても、最後まで厳しい戦いではありましたが、データを蓄積し、次の鈴鹿に生かせるようにしなければと思います。昨日の結果からは想定外の結果となってしまう、本当に悔しいですが、次は得意な鈴鹿です。チーム全員で一丸となって勝利を狙うレースがしたいと思っています」



■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「昨日の予選が良かっただけに、フラストレーションがたまるレースでした。マシンのバランスが悪くは無いのですが、タイヤがうまく機能しなかったというか、不思議な状況ではあったと思います。片山義章選手の走りも問題はなく、ピット作業にミスは無かったのに、コースに復帰した時に大きくポジションを落としていたので、追いつけるのが結構大変で、そういう意味でも自分たちの本来のポテンシャルを出し切れないレースだったと思います。次のレースに向けて、データを解析して、納得できる状況までマシンを理解して鈴鹿を迎えたいと思います。結果は残念でしたが、今回はファンの前でトークショーに出演したりして、スーパーGTの新たな魅力を感じた一日でした。皆さん、これからも応援よろしくお願いします」



